



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行

市議団
ニュース

ご相談は
お気軽に

市議会議員
福田 明
43-0468

市議会議員
鈴木やす子
42-2462

優良農地は地域の資産

儲け本位の企業の所有に道を開く農地法「改正」案

国会で「農地法」の改正案が審議されています。農地は、農家の財産であると同時に、地域全体にとつての資産でもあります。その仕組みが、国民の知らないところで改変されようとしています。「農地は耕作者み

ずからが所有することを最も適当であると認め」という原則を削除し、これまで規制してきた企業による所有にまで道を開く内容です。

市議会に
反対請願

5月の農業委員会では、鈴木孝夫委員が発言して、派遣法によって労働者が使

い捨てにされ、働く人の3人に1人が非正規雇用になつてしまった例をあげ、今回の農地法の改悪に反対である

ることを主張しました。

いま開会中の市議会には「社会的責任を放棄して派遣切りや雇止めを行つてい

減反田を水田として活用する策として

飼料用米と稲発酵粗飼料

市独自の助成も



5月19日、市役所内の会議室で「飼料用米・稲発酵粗飼料の現状と今後の動向について」と題して講演会が開かれました。講師は、農水省畜産振興課の上原健一氏。北茨城・高萩・日立の3市の農業関係者など約100名が参加しました。

水田の生産調整の一環として、飼料用の稲を本格的に栽培しようとするもので、農水省としても本腰を入れ

るとの内容でした。

焼酎のお湯割りに氷を入れる

市職員の一部金カットには反対

麻生総理の言葉を借りれば、今日の状況は「百年に1度の経済危機」と叫ばれ、危機を打開するため内需を拡大しなければならぬというこ

焼酎のお湯割りに、氷を入れ需拡大に逆行する、まった

市議団は、いわば「焼酎のお湯割りに、氷を入れ需拡大に逆行する、まった



新病院建設・市政座談会から

本紙前号でもお伝えした新病院建設・市政座談会。

質問では、病院の

現状に対する不安の声も出されました。市長は「癌治療の先端の新院長自身も医師招へいに動き、副院長は心臓カテーテルの実力派で、循環器内科の設置を予定している。常勤の麻酔医も医局長として働いている。現在常勤医16名にくわえて非常勤22名で、常時19名の体制といえる。市民の信頼を得るよう働いていただき、

今後とも医師確保に努めると答えました。診療科目については、絞り込みを含め今後の課題としていきます。また、建設構想にかかる経費についての質問も出されました。いっぽう、党市議団には「市長のあいさつと報告が続くなかで、質問ができる雰囲気ではなかった」「困難な財政状況のなか新病院建設が可能なのか、数字を含め説明が不十分ではないか」といった参加者からの声も寄せられています。

く道理に合わない矛盾だらけのものです。

本市ではこの2年間で、50名を超える職員が退職し、一人ひとりの職員の仕事量はかつてなく増えています。

住民の奉仕者たる職員が、住民の期待にこたえて、さらに生き生きと働いてもらう

ためにも、本市においては、内需の消費拡大に逆行する

ような今回の人勧による職員の一時金の削減はおこな

うべきでないと考えます。

なお、特別職の市長・副市長・教育長、そして議員